

trivia ■皮膚科のトリビア■ (130)

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで見聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

乳房外Paget病の親子例

第11回加齢皮膚医学研究会から（平成27年9月6日）

37歳の男性で、陰囊に乳房外Paget病が生じた。父にも陰囊と鼠径部に同症があり、73歳の時に気づかれている。本邦ではこれまでに6家系の親子例の報告があり、親は60歳代で診断されるが、子はそれよりも平均17歳若く診断されている。乳房外Paget病では*deleted in liver cancer 1 (DLC1)* 遺伝子の変異が関連するという報告もあるが、遺伝よりはエピジェネティックな要因が主体と考えられる。

「親が乳房外Paget病であれば、自分も心配になって観察するため、早く気づくだけかもしれない。家族歴についてはしっかり聞いておく必要があるようだ」。

乳房外Paget病で行うべき特殊染色のルーチン

第11回加齢皮膚医学研究会から（平成27年9月6日）

多くの症例で、アポクリン腺由来の原発性乳房外Pagetでは、CK7(+), CK20(-), GCDPF-15(+), 肛門管あるいは直腸由来のPaget現象ではCK7(-), CK20(+), GCDPF-15(-), 尿管上皮由来ではCK7(+), CK20(+), GCDPF-15(-)で、鑑別の補助となり、もはやルーチンで行うべき特染である。

「専門医試験や国家試験にも出てきそうな基本中の基本。リンパ腫や皮膚腫瘍の鑑別に必要な特染のルーチンは、開業医も知っておかなければならない」。

在宅で使用できる身体に装着可能な陰圧閉鎖療法

第24回神奈川県皮膚科医会在宅医療勉強会から（平成27年9月10日）

局所陰圧閉鎖療法は褥瘡の早期閉鎖に有用だが、これまでは入院加療でしか扱えなかった。2013年以降在宅や通院でも使用が可能な機器が登場した。SNaP（米国Spiracur社製）、PICO（英国smith & nephew社製）はそれぞれ陰圧装置が手のひらサイズで、携帯が可能。

「標準的には週2回のドレッシング材交換が必要らしい。意外に面倒で、価格も高く、普及はなかなか難しそうだ」。

リツキシマブとHBV再活性化免疫再構築症候群

第11回神奈川乾癬治療研究会から（平成27年9月24日）

B型肝炎はHBVの初感染で、急性肝炎発症の際にHBs抗原が陽性化、その後HBc抗体が陽性となり、HBs抗原が陰性化して治癒し、通常は再燃しない。しかし、寛解後もHBVは核内に2本鎖閉鎖環状DNAとして残存している。B細胞性リンパ腫の化学療

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス：

<http://www.asai-hifuka.com>

法 (R-CHOP療法) を行った症例で、HBs抗原が再度陽転化し、劇症肝炎を発症することが報告された。リツキシマブはHBs抗体陽性既感染例でもその抗体価を下げ、HBVの再活性化を許す結果となる。また、HBV遺伝子にはglucocorticoid enhancement elementがあり、ステロイド投与がウイルス量を増加させることが知られている。この際の治療には、DNAポリメラーゼ阻害薬のエンテカビルが用いられる。

「既感染であっても、中和抗体がなくなると再活性化が起きるということ。薬剤性過敏症症候群 (DIHS) もそうだが、ウイルスの再活性化が関与する急性発疹症は、少ないのではと思う」。

hyper IgE syndromeではTh17 サイトカインの産生が低下している

第11回神奈川乾癬治療研究会から (平成27年9月24日)

高IgE症候群は、1) 黄色ブドウ球菌を中心とする細胞外寄生細菌による皮膚膿瘍と肺炎、2) 新生児期から発症するアトピー性皮膚炎、3) 血清IgEの高値を3主徴とする免疫不全症で、STAT3のmutationが原因である。STAT3は30種以上のサイトカイン・増殖因子のシグナル伝達に関与しており、この障害が疾患の発症に関与しているものと考えられる。その中でも、IL-17、IL-22などのTh17サイトカインの産生が低下していることが明らかにされた。ケラチノサイト

と気管支上皮細胞においては、Th17サイトカインが好中球を遊走させるサイトカインや抗菌ペプチドの産生に重要であり、高IgE症候群の患児で皮膚と肺で黄ブ菌感染症を起こしやすいことと関連している。

「Th17が活動しないと、Th2に流れていくようだ。易感染性は説明できたようだが、額の出っ張り、脊椎側弯などの骨・軟部組織の症状については関連がまだわかっていないらしい」。

軟部悪性腫瘍のOops excision

横浜市皮膚科医会第141回例会から (平成27年10月15日)

軟部悪性腫瘍は初回の不適切切除による増悪が多く、Oops excisionと呼んでいる。四肢における軟部腫瘍の生検では、皮切を長軸を縦にすること、無理な剥離はしないこと、被膜をきちんと縫合すること、確実な止血を行い、場合によってはドレーンを置き血腫を予防することが大事である。

「皮切が横だと、再切除後の再建が大変になるらしい。脂肪肉腫などを疑ったら、最初からがんセンターに任せた方が無難というのが結論」。

